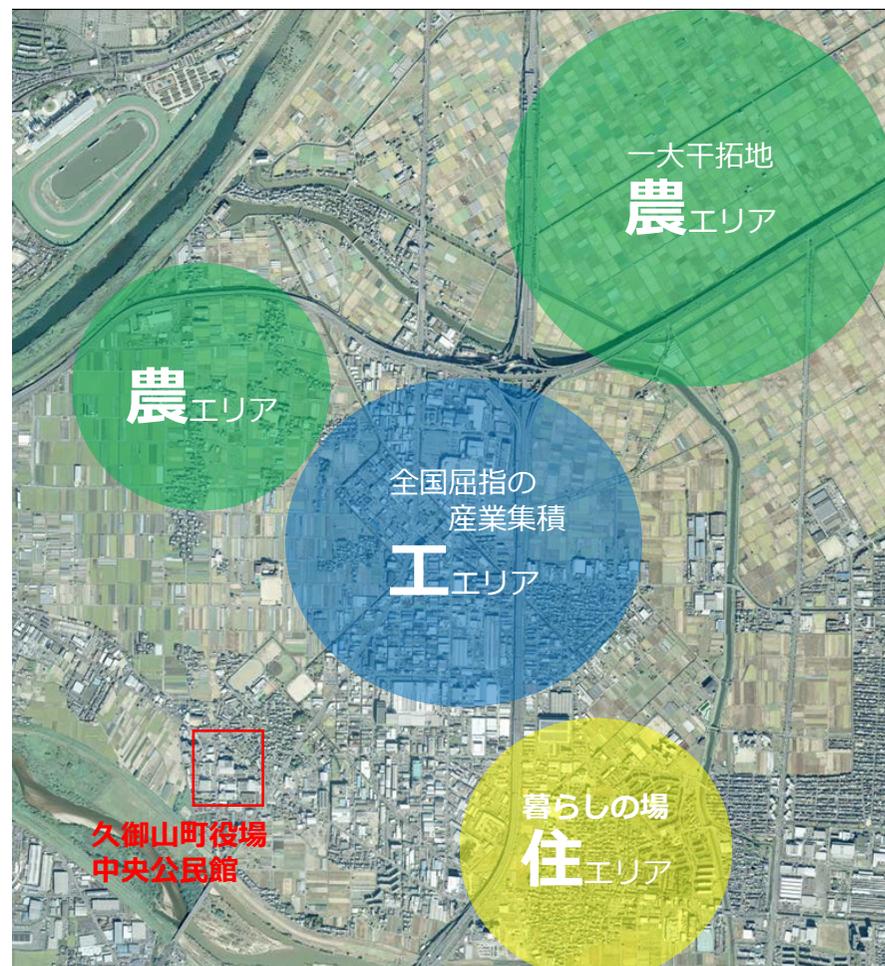


1. 久御山町の概要



面積13.86km² 人口15,851人

- ・交通の要衝に位置するため、昼/夜間人口比が**1.77倍**（全国**3位**）と高い産業集積地。京都府内唯一の不交付団体でもある。
- ・かつて**800ha**にも及ぶ巨椋池という巨大な池があったが、昭和8年の国営第1号干拓事業により、現在は良質な一大農業地帯へと生まれ変わっている。



① 居住人口の減少

- 全国的な人口減に加え、転出要因として「住環境への不満」、「街への愛着が持てない」ことなどが挙げられている。（久御山町人口ビジョン、久御山町まちづくりアンケート調査より）

② 工業団地の人材不足

- 工業団地内では有効求人倍率が6倍を超えて人材不足が深刻化している（久御山町企業実態調査より）

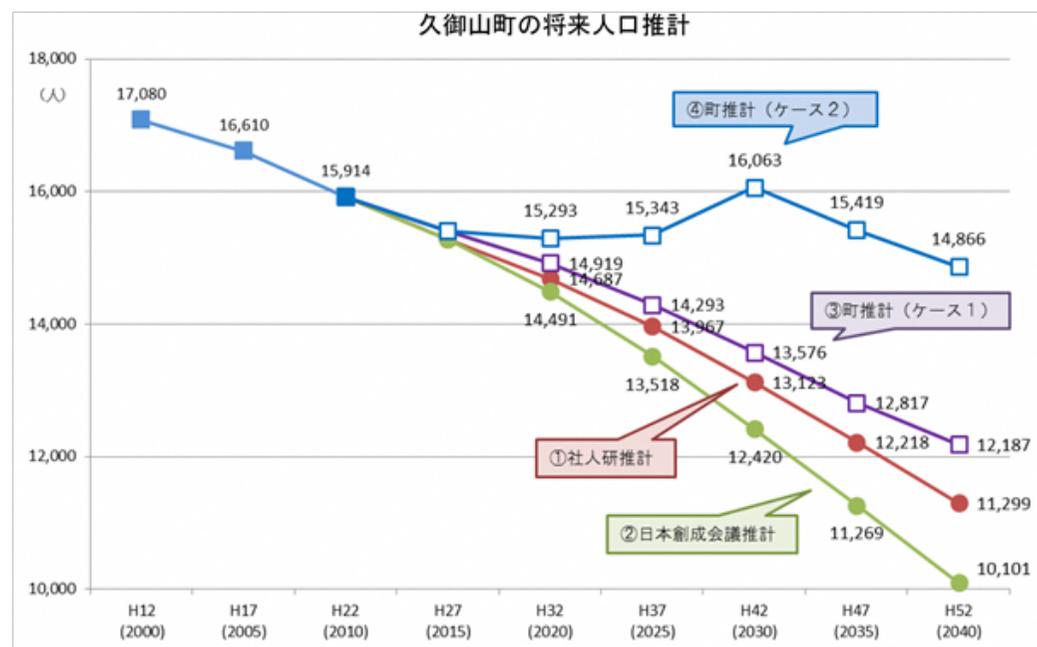
③ 農業ブランドの認知不足

- 若手を中心に規模の拡大や販路開拓を行っているが、久御山野菜そのものの認知度やブランド力が弱い状況にある。（久御山町企業実態調査より）

有効求人倍率

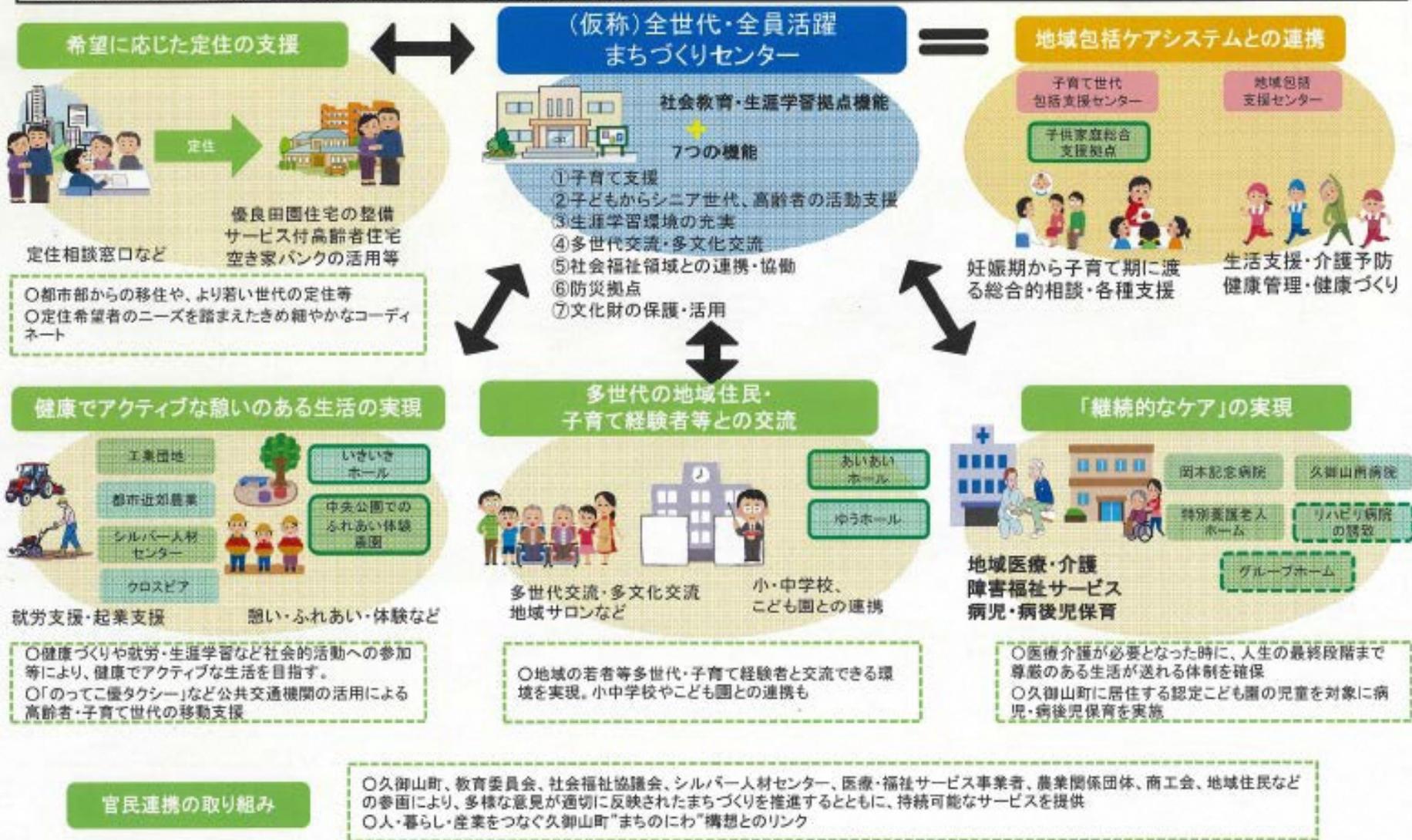
	有効求人倍率
全国	1.04
京都府全体	1.00
久御山町近隣	1.41
久御山町	6.27

R2.8現在



久御山全世代・全員活躍共生型社会の実現

◎あらゆる世代の住民が、「居場所」と「役割」を持ってつながり、交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができ、若年層をはじめ、障害者など誰もが地域で働く場を確保し、子育て世代が安心して出産・子育てできる地域づくりを推進することにより、久御山モデルの「地域共生社会」を実現することを構想の基本理念とする。



4. 町内の主な公共施設

- 町内には、文化、社会教育、スポーツ・レクリエーション、子育て支援等を目的とした公共施設が点在していますが、いずれも老朽化が進みつつあります。



構想推進のコンセプト

- ①住まい＝定住人口の増加や地域コミュニティの活性化、産業の発展をめざすための住まいの整備
- ②ケア＝町内の医療機関や介護福祉施設との連携・ネットワークによる「継続的なケア」の実現
- ③活躍＝若者から高齢者まで全ての人が健康でアクティブに活躍できる生活の実現
- ④定住＝公共交通の充実や豊かな緑や自然を感じられる公園の環境整備など定住基盤の整備
- ⑤コミュニティ＝居場所と役割を持つコミュニティにおける社会教育・福祉拠点の整備

構想の目的

- ①いつまでも健康で活躍できる久御山医療・福祉モデルの推進
- ②誰もが能力をいかして健康でアクティブに活躍できるまちづくりの推進
- ③地域力で子育てできる環境づくりの推進
- ④町の自然・歴史・文化遺産などを結ぶ取組の推進
- ⑤優良田園住宅の整備や公共交通の環境整備などによる定住促進、ふれあいのある公園整備の推進

おける継続的なケアなど、さまざまな分野での取組を進めようとしています。

取組の推進に向けて、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」構想は、以下の五つをコンセプトにして進めていきます（右表）。

- ①住まい（優良田園住宅や住街区の整備、空き家の活用など）
- ②ケア（地域医療体制や一貫的なケア体制の構築・健康増進、介護予防におけるウオーカブル「歩くまちくみやま」の推進など）
- ③活躍（高齢者の就労の機会支援、「み

まちづくりシンポジウムを開催

令和2年2月1日(土)には、住民参加・住民協働による「地域共生社会」のまちづくりをめざす、CCAC構想を皆さんにお伝えするため、シンポジウムを開催しました。

シンポジウム後のアンケートでは、先進的な取組に期待する内容や非常に参考になったという声など、さまざまな意見がありました。

なぐるタウン」の整備、若い年齢層の人材の確保・後継者育成など）

- ④定住（誰もが自由に移動できる良好な公共交通の実現、公園を活用した環境整備「まちのかわ構想」など）
- ⑤コミュニティ（全世代・全員活躍まちづくりセンターの整備）

「全世代・全員活躍まちづくりセンター」の整備に向けて

全世代・全員活躍の基盤となるまちづくりの観点から、「誰もが居場所と役割を持ち、地域の多世代の住民と交流しながら」、「活気あふれる久御山モデルの『地域共生社会』」を実現するための拠点として、従来の公民館の社会教育・生涯学習拠点の機能をアップし、多世代交流拠点施設として新たに「全世代・全員活躍まちづくりセンター」の整備を進めていきます。

今年度（令和2年度）に全世代・全員活躍まちづくりセンター整備検討委員会の設置、基本計画を策定し、令和5年度中の完成をめざします。



※CCAC構想の内容はホームページでも公開

全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』構想

～夢いっぱいコンパクトタウンくみやまCCAC構想～

「CCAC」とは、「Continuing Care All generations Community」の略で、あらゆる世代の住民が活躍できる久御山モデルの「地域共生社会」のことを言います。

構想の目的

第5次総合計画では、「住みよい希望にみちた町久御山」を基本理念とし、「だれもが住みなれた場所であり、いき暮らしの地域をつくる」ことをまちの将来像の実現のための目標の一つとしています。

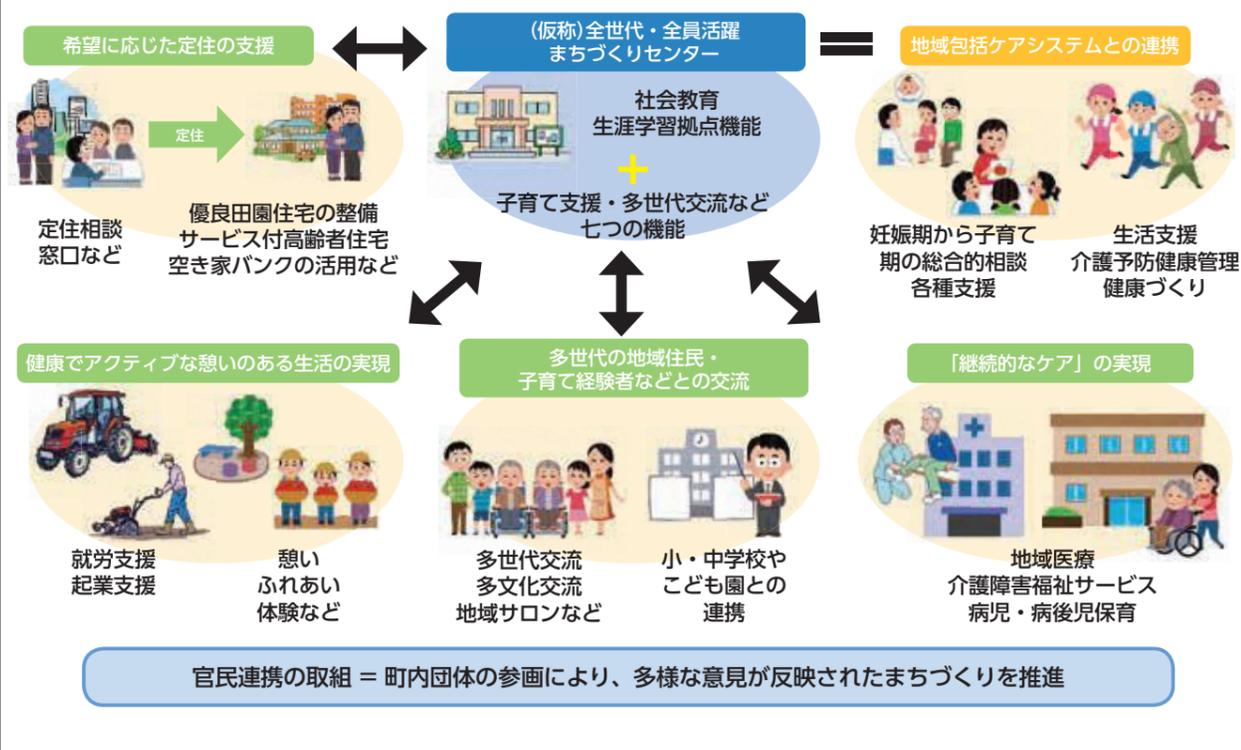
目標を達成するため、あらゆる世代の住民が、「居場所」と「役割」を持つてつながら、交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができ、若年層をはじめ、障害者など誰もが地域で働く場を確保し、子育て世代が安心して出産・子育てできる地域づくりを推進することにより、久御山モデルの「地域共生社会」を実現したいと考えています。

そのため、構想の目的（上表）を定め、地域共生型の社会実現をめざし、全世代・全員が活躍できるよう、令和2年3月に「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』構想」を策定しました。

取組の内容

人口減少社会に突入し、コミュニティの希薄化が懸念されている中で、久御山町では、計画的な土地利用、全世代・全員の協働、少子高齢化社会に

久御山全世代・全員活躍共生型社会のイメージ



全世代・全員活躍 まちづくりセンター

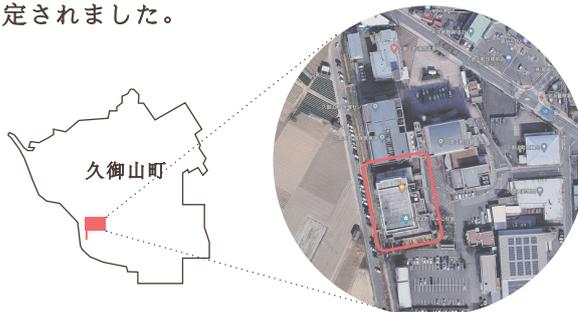


整備の検討委員会がはじまりました。

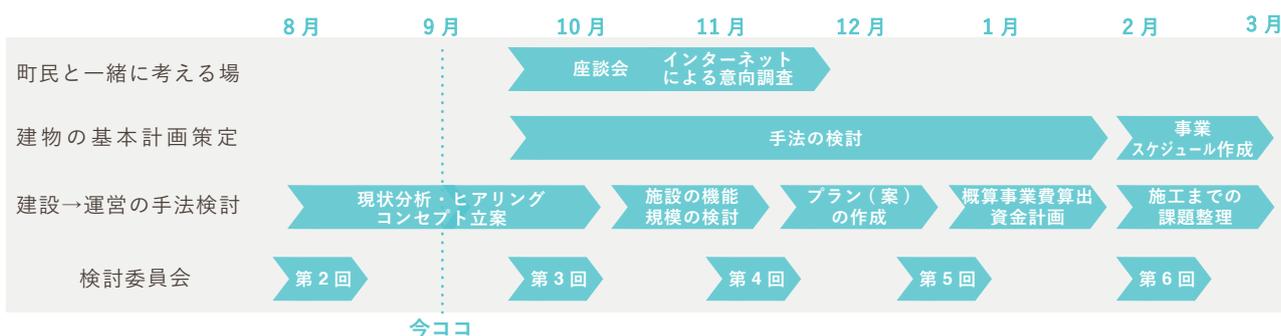
全世代・全員活躍まちづくりセンターとは、久御山で暮らし、働くさまざまな世代の方が交流できる場として、今の中央公民館をリニューアルして新たに整備していく拠点です。これまでの中央公民館の役割をアップデートし、町民みなさんが主役となって使える場所になるように検討を進めていきます。

まちづくりセンターの整備の経緯について

現在の中央公民館は、耐震性や老朽化の問題からホールの使用停止が続いています。平成 29 年度には、利用状況の調査や必要な機能を整理し、今後の建物のあり方についての検討を行いました。結果として、適切な規模での建て替えの方針と「まちづくりセンター」として整備していくことが決定されました。



整備検討の流れ（今年度の予定）について



検討委員会第1回・第2回について

第1回

2020年 5月22日（金）

委員長と副委員長選定の報告を行い、まちづくりセンター基本計画を策定していく手順等について書面会議を行いました。

第2回

2020年 8月4・5日（火・水）

まちづくりセンターを整備していく上での委員それぞれの思いを伝えあいました。コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、リモートでの参加を取り入れ、密を避けた形の委員会となりました。



検討委員会は建物の専門家、町民協働の専門家、町内で活動されている子育てや福祉関係の方など様々な立場の方12名で構成されています。